

資料3

# 福島第一原子力発電所の敷地境界外に影響を与えるリスク総点検に関わる対応状況

2017年11月16日

**TEPCO**

---

東京電力ホールディングス株式会社

- 対策が完了していない件名のうち、液体の放射性物質濃度が高いことから対策の優先順位が高い件名や、過去に個別に状況報告した件名の主な進捗について下表に示す。

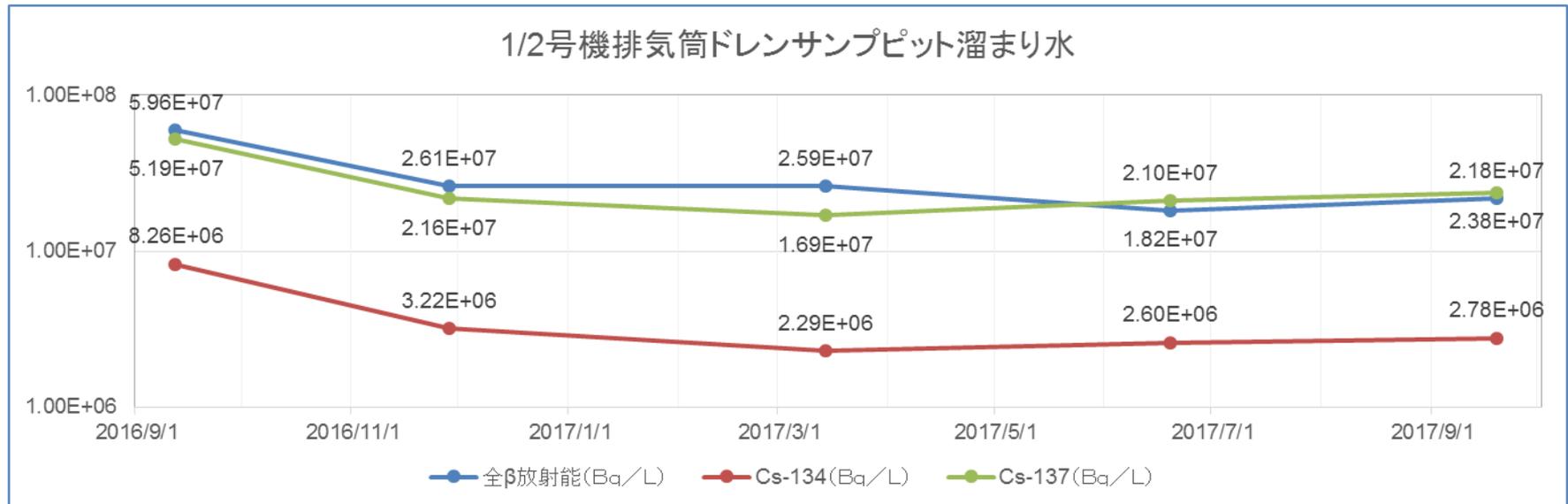
リスク総点検 管理番号	リスク存在箇所	リスク内容	対応概要	今回の 行い
19-2	1/2号排気筒ドレンサンプ ピット	・排気筒に降った雨がサンプピットに流入し、 ピットから溢水し、流出	・排水設備の自動化が完了し、自動排水で運用中。	対策 実施中
110	サブドレンピットNo.16	・ピット内から周辺地下水への 流出 ・豪雨時等の地下水水位上昇による溢水	・サブドレンNo.16ピットの水を汲み上げし、放射能濃度等の監視を継続。	対策 実施中
93~102	溜まり水のあるトレンチ	・津波による建屋滞留水増加により溢水 ・トレンチ壁の劣化等により地中に漏出	・建屋に接続しているトレンチについては溜まり水点検結果等に基づき、汚染水の漏えいリスクや建屋への水流入リスク、現場状況を勘案し、順次、溜まり水除去・充填の対応を実施。	対策 実施中

## 1. 1 / 2号機排気筒ドレンサンプット用仮設排水設備設置による移送

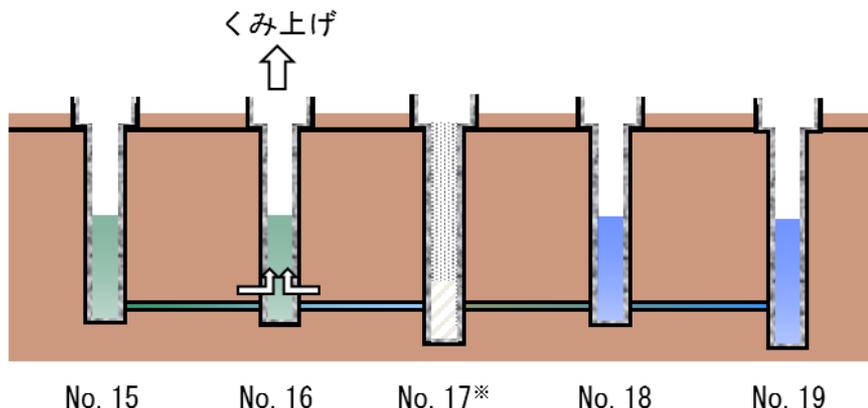
- 2016.10.3 仮設排水設備設置が完了し、排水を開始
- 2017.3.24 排水設備の自動化が完了し、サンプットから一時受けタンクまで自動排水を開始

## 2. ピット内溜まり水の分析結果

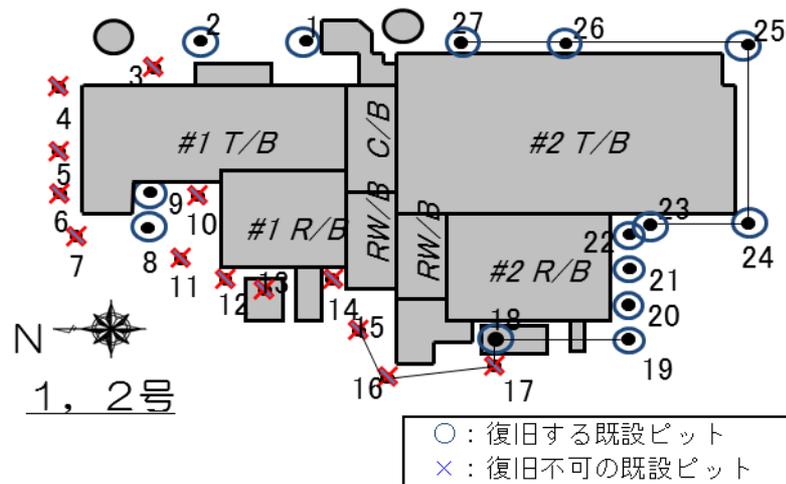
- 2016.9.12より定期的に放射能濃度の分析を実施



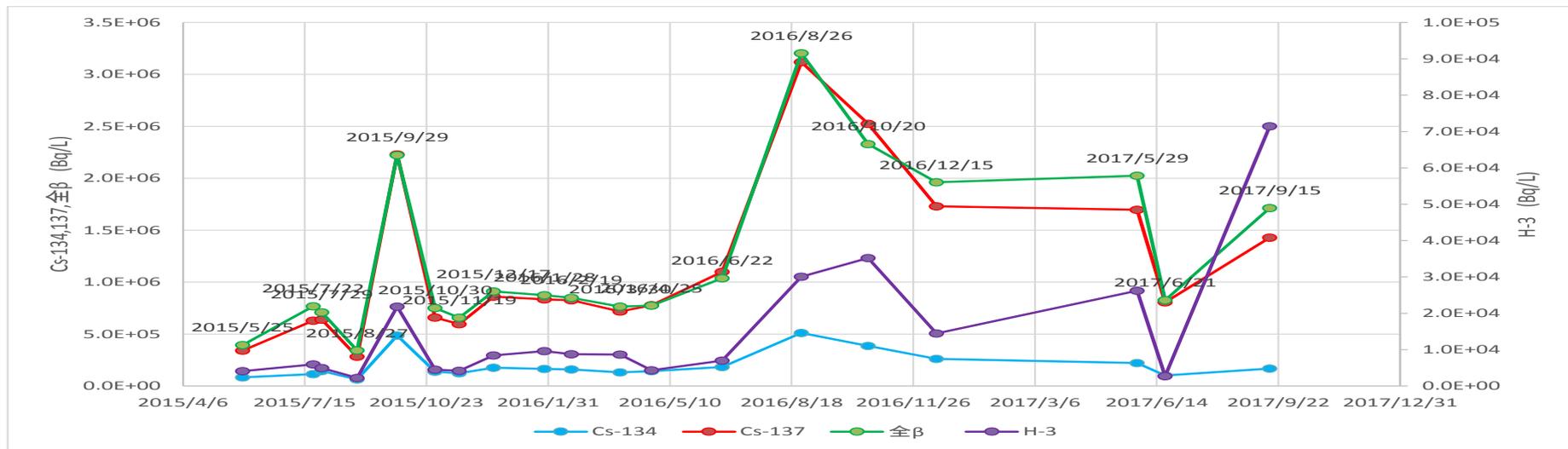
# (リスク総点検番号110) サブドレンNo.16ピットの対応状況について **TEPCO**



※ No.17ピットはコンクリートで閉塞済。内包水無し。



- 現在、1回/2ヶ月程度でたまり水の汲上、放射能濃度の測定を行っている。2016年8月の汲上では、直前の降雨の影響により一時的な汚染物の持ち込みによって放射能濃度の上昇が認められた（2015年9月も同様）。



■ 未対応のトレンチについては、2017年度も引き続き、滞留水がある建屋に接続しているトレンチ等を中心に、溜まり水の放射性濃度、水量、現場状況を勘案し、下表のトレンチの溜まり水の除去や充填等の対応を実施していく予定である。

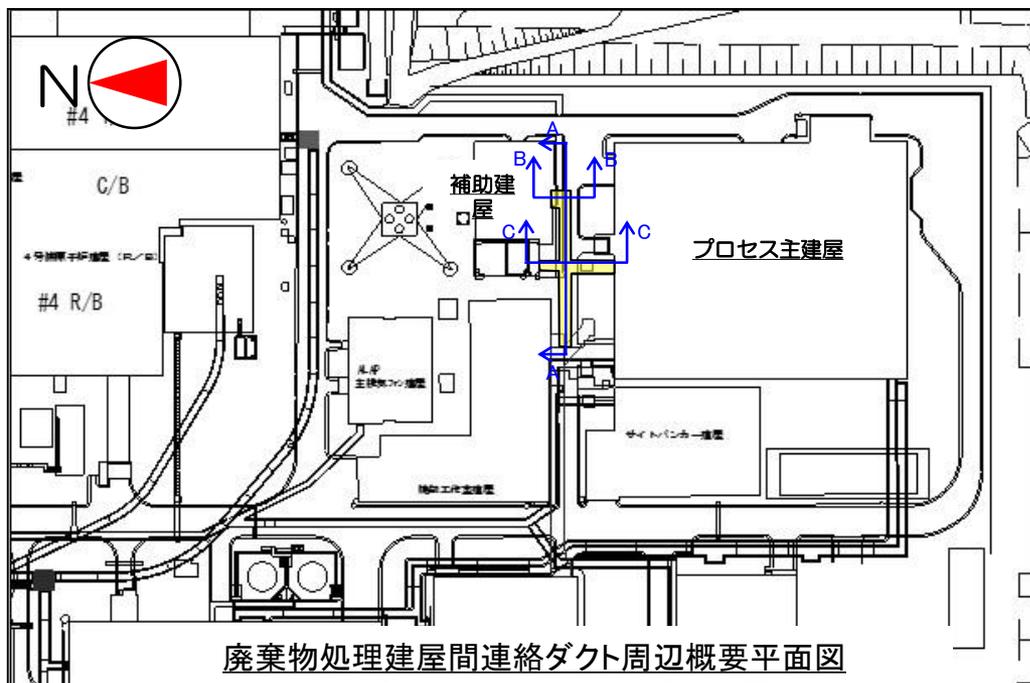
◆溜まり水点検結果（滞留水がある建屋に接続しているトレンチ等）（2016.10～2017.1実施）

状況区分	溜まり水の放射性物質濃度(Cs)・区分		2016年度点検結果	2017年度対応状況
溜まり水あり	10 <sup>6</sup> Bq/Lレベル～	A	0	—
	10 <sup>5</sup> Bq/Lレベル	B	0	—
	10 <sup>4</sup> Bq/Lレベル	C	1	・廃棄物処理建屋間連絡ダクト:2017年7月充填完了
	10 <sup>3</sup> Bq/Lレベル		2	・1,2号機共通配管ダクト(1号機北側):2017年9月部分充填完了 ・4号機放射性流体用配管ダクト:2017年11月溜まり水の除去完了
	～10 <sup>2</sup> Bq/Lレベル		11	・1,2号機共通配管ダクト(1号機東側):2017年7月部分充填完了 ・1,2号機共通配管ダクト(2号機):2017年7月部分充填完了 ・1号機海水配管トレンチ:2017年12月から実施予定 ・集中環境施設廃棄物系共通配管ダクト:計画中
	ND		0	—
溜まり水なし			2	—
調査困難			10	—
計			26	—

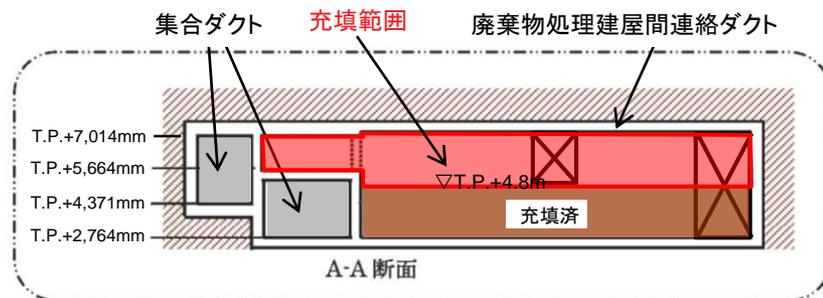


# (リスク総点検番号 : 93~102) トレンチの対応について

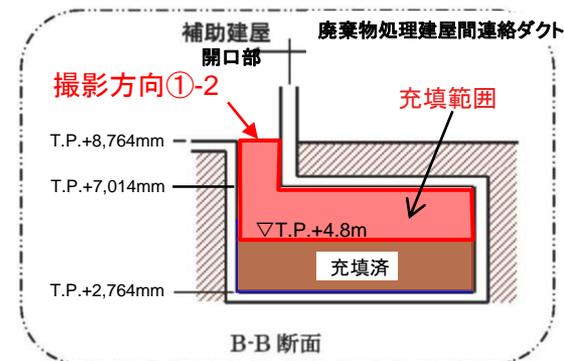
充填 7/14 完了 充填量:約420m<sup>3</sup>



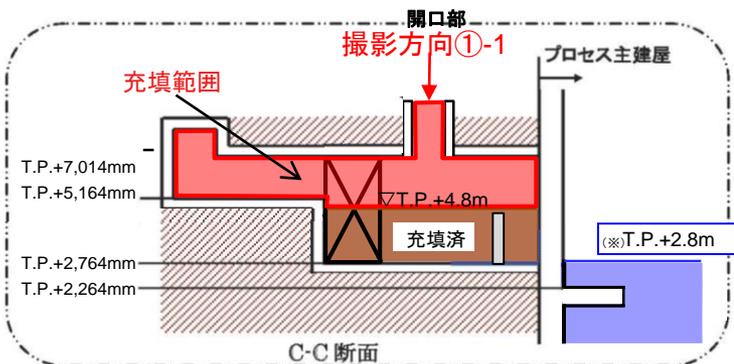
廃棄物処理建屋間連絡ダクト周辺概要平面図



A-A 断面



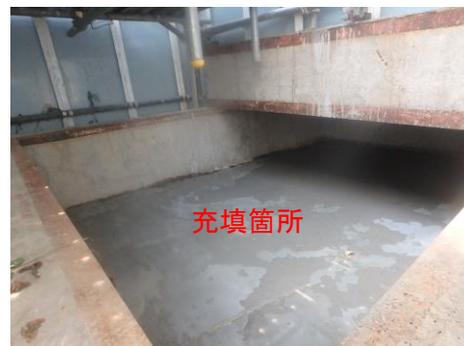
B-B 断面



(堰天端高さ:T.P.+4.7m程度)

(※ 4/7 7:00時点)

撮影方向①-1



撮影方向①-2



- リスク総点検の見直しとして新たなリスクの抽出を実施。抽出したリスク（1/2号排気筒及びガスボンベ）については、現在の対応状況を踏まえ、既抽出済のリスク項目の中でフォローアップしていく。
- 引き続き、廃炉作業の進捗・環境変化等を踏まえリスクの抽出を実施していく。

リスク存在箇所	リスク内容	対応概要	対策のフォローアップ
1/2号排気筒	・地震に伴い排気筒が倒壊。敷地境界外にダストが飛散する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点検結果を踏まえた解析モデルを用い、耐震安全性評価を実施。排気筒が倒壊には至らないことを確認。</li> <li>・1/2号機の排気筒は、リスクをより低減するという観点から、排気筒を半分まで解体し、耐震上の裕度を確保する計画。なお、作業にあたっては、ダスト飛散抑制策を図る。</li> </ul>	作業においてダストが発生するリスクの中で対応。（管理番号162）
ガスボンベ（火災）	・ガスが漏えい、火災が発生し、ダストが飛散する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガスボンベは、火災リスク低減に向けた対応の一環として、回収を実施中。 （参考） 火災リスク低減に向けた取組みは、火災発生防止、早期検知・消火、延焼防止の観点で対応中。</li> </ul>	火災によりダストが飛散するリスクの中で対応。（管理番号189）